

# 令和7年度学校評価表

本校の中期目標（令和5年度～令和7年度）	今年度における各分掌の重点目標
<p><b>【SSH事業の推進と建学の精神の達成】</b>            ■令和5年度から令和7年度は文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）第2期における最初の3年間に位置付けられる。SSH第2期では全教員がSSH事業を自分ゴトとしてとらえ、全校体制で推進することが目標となり、SSH事業の推進が本校の建学の精神「探究」「共成」「飛躍」の達成につながる。このことから、中期目標では令和7年度に実施される中間評価で第1期以上の評価を得ることを目標とする。</p> <p><b>【自律とバランス】</b>            ■個人と組織の自律を目指す。具体的には生徒や教職員の自主性の向上、学級経営力の強化、学校組織の永続性を目指す。そのために令和6年度に授業時間を45分から50分に変更することで時間を確保し、自律に向けた様々な取り組みを計画し実行する。            ■開校後10年がたち業務内容や実績に偏りが生じている箇所が見受けられる。SSH業務の負担、中高の人員配置、進学率の偏りなどの課題を洗い出し業務バランスの再設計を図る。</p>	<p><b>【探究部(探究)】</b>            SSH事業として研究開発する内容に関して、大きく「研究開発の内容をみえる化し内外へ発信すること」「研究開発の内容が校内で人材育成の手法として運用されること」の2つを実現するために4点の具体的目標を設定する。</p> <p><b>【生徒支援部(共成)】</b>            生徒支援体制の拡充に向けて、生徒と教員が協働してチーム担任制・学級経営に取り組むことで、生徒による課題解決に向けた学級作りを目指す。</p> <p><b>【進路支援部(飛躍)】</b>            海外大進学を含めた多種多様な進路選択を可能とするような6年間の進路体制を築く。また高校3年生の進路実現支援体制と、自己調整型学習者の育成に向けた支援体制の実装を目指す。</p> <p><b>【教務部】</b>            授業や学習評価に関して教職員間の相互理解を深める。業務の整理を通して教職員の自律性を向上させる。</p> <p><b>【広報部】</b>            SNSアカウント運用と生徒募集行事の改善により学内外の関係者とのつながりを深める。SSH事業・進路実績などの、近年の特色ある取り組みを周知する。</p>

		年度当初		評価結果（年度末）	
	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価	自己評価および次年度の主な課題
探究部 （探究）	1. STEAM融合型探究プログラムの開発 ①探究以外の授業でのスキル獲得が探究の授業で活用されるシステムを整理・構築する ②探究スキルラーニング実施で得られたデータをもとに授業改善がなされる仕組みを構築する	①課題研究で活用するループリックにおいて評価項目と探究スキル活用の関連性が明確になる修正をする。 ②探究スキルラーニングで活用されたループリックをもとに取り組み状況を集計し（年3回）教科主任を含むチームで複数のディスカッションを実施し教科における授業改善の方法について協議し具体案を残す。	A：①②とも達成された。 B：①は達成されたが②において授業改善の方法に関する具体的な協議結果が残らなかった。 C：①のループリックの修正が行われず既存のものを活用して評価データを取得した。②の達成は不問。		
	2. 指導と評価の一体化に向けた学校全体の取り組み整理 ①探究の成果物を客観的に評価する仕組みを構築する ②探究の進捗状況を生徒自身が振り返ることができる仕組みを構築する	①生成AI（chatGPT）を活用した修了論文評価システムの修正と評価結果の妥当性について検討を行う。 ②生徒自身が毎週の取り組み状況を記入できる場所を設定し、入力された振り返りの記載データをもとに評価を行う方法について検討する。	A：①②とも達成された。 B：①については達成されたが、②の評価に使うデータの回収が不足していて具体的な評価方法の検討に至らなかった。 C：①について生成AIの活用で得られた数値データの妥当性について検討することができなかった。②の達成は不問。		
	3. 研究開発の成果普及に向けた取り組み ①課題研究の進め方に関する教材を開発・活用しながら公開できる状態の教材を作成する ②探究の指導に関わる情報が学内で共有され活用できるようにする	①デザイン思考を活用した探究活動で使用するワークシートを追加公開する。システム思考活用に関する説明を付した資料を作成し公開する。 ②青翔開智におけるデザイン思考およびシステム思考の活用についての共通の理解を示し、課題研究の指導の際に参照することで指導の補助となる学内サイトを作成する。	A：①②とも達成された。 B：①は達成されたが、②について思考法活用の情報が不足していて教員が課題研究の指導に活かすことができない状態のサイトになっている。 C：①について課題研究におけるデザイン思考活用やシステム思考活用を説明する資料を新たに公開できなかった。②の達成は不問。		
	4. 外部機関の効果的な活用と連携強化の取り組み ①探究成果発表の機会提供と参加状況把握の仕組み検討 ②探究及びSTEAMでの外部連携の体制を精査し中長期の安定かつ持続可能な連携体制を構築する	①外部からのコンテスト等の募集状況をリスト化によって把握し、生徒が選択・検索できるようなデータベース化の方法について検討する。 ②外部講師の招聘について精査し、時期・金額・連携内容を精査した上で依頼・実施・事後のタスクを明確にすることで持続可能な連携体制構築を図る。	A：①②とも達成された。 B：①は達成されたが、②について次年度以降運用できる形の精査・情報整理ができなかった。 C：①についてコンテスト等の募集状況をリスト化できなかった。②の達成は不問。		

生徒支援部 (共成)	1. 生徒支援体制の確立	①毎週の学年会冒頭で支援を要する生徒に関する個別支援計画の確認・見直しを実施する。 ②「現状」については学年朝礼で確認し、職員朝礼で共有することで、職員会議で個別の指導計画の共通認識の時間を確保し、生徒の安全に向けた意識の向上を図る。	A：①②ともに実施することができた。 B：①については実施することができたが、②については生徒の「現状」に多くの時間を割いてしまった。 C：①については学年会での流れが定着させることができず、②についても職員朝礼と職員会議での情報のすみ分けが曖昧な状態となってしまった。		
	2. チーム担任制の実施（R08）に向けたシステムの運用開始	①学年の業務分担シート・面談シートの運用、通年の業務内容の精査を行い、次年度に向けて流れの共有を図ることができる。 ②学級委員とともにクラスの「枠」（学級目標・ルールなど）を作り、生徒が能動的に学校生活を送ることができる。	A：①②とも達成し、教員研修を通して共通理解を図ることができた。 B：①②ともに達成することができたが、学級委員との連携が十分ではなかった。 C：①についてシートの運用が徹底されず、②について学級委員との連携が十分ではなかった。		
	3 生徒支援版自己調整ルーブリック作成	①共成・飛躍の「目標・遂行・振り返り」ができるルーブリックを作成する。 ②学期ごとの行事を軸にした目標を学級委員会と共同で設定し、ルーブリック（仮）を運用する。	A：①②ともに作成し、運用することで、目標・遂行・振り返りを行うことができた。 B：①②ともに作成はできたが、運用することができなかった。 C：①②ともに運用できる状態まで作成することができなかった。		
進路支援部 (飛躍)	1. 理系進学・海外進学サポートの実施	①昨年度作成した6年間の進路計画の確実な実施に向けて、関係各所への適切な促しや調整を行う。また課題点や改善点を見つけ、次年度の計画を作成する。②マレーシア大学見学・説明会、オーストラリアSSH研修等の海外派遣事業報告会の企画運営を行う。	A：①に関して各イベントが適切に実施されているかを監督し、実施に際しての課題点や改善点を盛り込んだ次年度の計画を作成することができた。また②のいずれも予定通り実施した。 B：①②のいずれかに不足があった。 C：①②いずれも実施できなかった。		
	2. 自己調整学習の推進	①生徒の自己調整達成度を測る枠組みを考案する。 ②生徒の自己調整達成度に応じて、適切で具体的な方略を提案し、生徒の自己調整度を高めるための指導を行う。	A：①に関して「自己調整到達度アンケート」を実施し、それと単元テストの結果等を関連づけた枠組みを考案できた。②に関して具体的な方略を生徒に提示し、モニタリングする実例をいくつか作ることができた。 B：①②のいずれかに不足があった。 C：①②いずれも実施できなかった。		
	3. 高校3年生進路支援の深化	①7月～9月の隔週職員会を企画し運営する。 ②出願情報・受験結果情報を一元化する整理システムを構築し進路支援部で管理・運営する。	A：①を計画通りに実施し、②のシステムも構築・運用することができた。 B：①②のいずれかに不足があった。 C：①②いずれも実施できなかった。		

教務部	1. 学習評価新基準の運用と課題の精査 ①新基準運用前後の成績について各教科で評価し課題を精査する ②教職員間で新基準についての共通認識を深める	①教科会における評価内容をとりまとめ、探究部・進路支援部・教務部によって構成される評価検討会議にて課題を精査し、次年度の運用に活かす手立てを提案する。 ②授業改善を目的として自己調整学習を推進し、すべての教員が実践できるようサポートする。	A：①②いずれも実施でき、教職員間で新基準についての共通認識を深めることができた。 B：①②いずれも実施できたが、教職員間で新基準についての認識にばらつきが見られた。 C：①②いずれかの実施が不十分だった。		
	2. 業務運営マニュアル作成と運用 ①業務を可視化し業務フローや業務量の見直しを図る ②業務運営マニュアルの運用によって学級経営や学校行事の質を維持する	①各業務のマニュアル様式を統一化し、振り返りを通じて業務フローや業務量を検討する。 ②2学期開始までにGoogleサイトを整理する。	A：①②いずれも実施でき、業務の見直しを図ることができた。 B：①について様式の統一化を実施し、②のGoogleサイトへ反映することができたが、業務フローや業務量の検討ができなかった。 C：②のGoogleサイトの整理が実施できなかった。		
	3. 教育関係者向けの学校公開の実施 ①教職員間で各授業への理解を深める ②受け入れから授業改善までの仕組みを整える	①教科会で各授業に関して内容共有する機会を設ける。 ②学校公開のフローを作成し、授業改善できる仕組みを提案する。	A：①②ともに実施でき、次年度の学校公開の準備が完了した。 B：①教科会で各授業に関して内容共有する機会を設けることができた。 C：学校公開を問題なく実施できた。		
広報部	1. SNS運用の強化 ①Instagram運用改善（YouTube連携含む） ②LINEの運用改善	①広報委員会Instagram運用のサポートを行い更新頻度を上げる。プロフィール整理、YouTube動画と連携したリール更新、ホームページ新着情報と連動したストーリー更新を円滑に行うための広報委員会の体制・仕組みをつくる。（プロフィール整理は1学期中、YouTube動画と連携したリール更新は年間16本以上、ストーリー（新着情報との連動）は年間50回以上） ②令和6年度以上の頻度でLINE配信を行う。（年間12回以上）	A：①②ともに実施した上で、次年度に向けて結果を分析し、円滑な運用や効果的な投稿・配信を行うための改善点を提案する。 B：①②ともに実施した。 C：①②いずれかが実施できなかった。		
	2. 生徒募集行事の改善	①中学校3年生対象オープンスクールの内容改善 ②小学校4年生・5年生対象ライブラリークエストの内容改善	A：①②共に実施し、参加者アンケートにおいて満足度4以上の支持を得た。 B：①②共に実施した。 C：①②いずれかが実施できなかった。		
	3. 特色ある取り組みの発信	①第2期SSH事業紹介パンフレット制作 ②海外大学進学パンフレット制作	A：①②ともに制作し学校公開・青開学会等で配布した。 B：①②ともに制作した。 C：①②いずれかが製作できなかった。		